

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak
LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

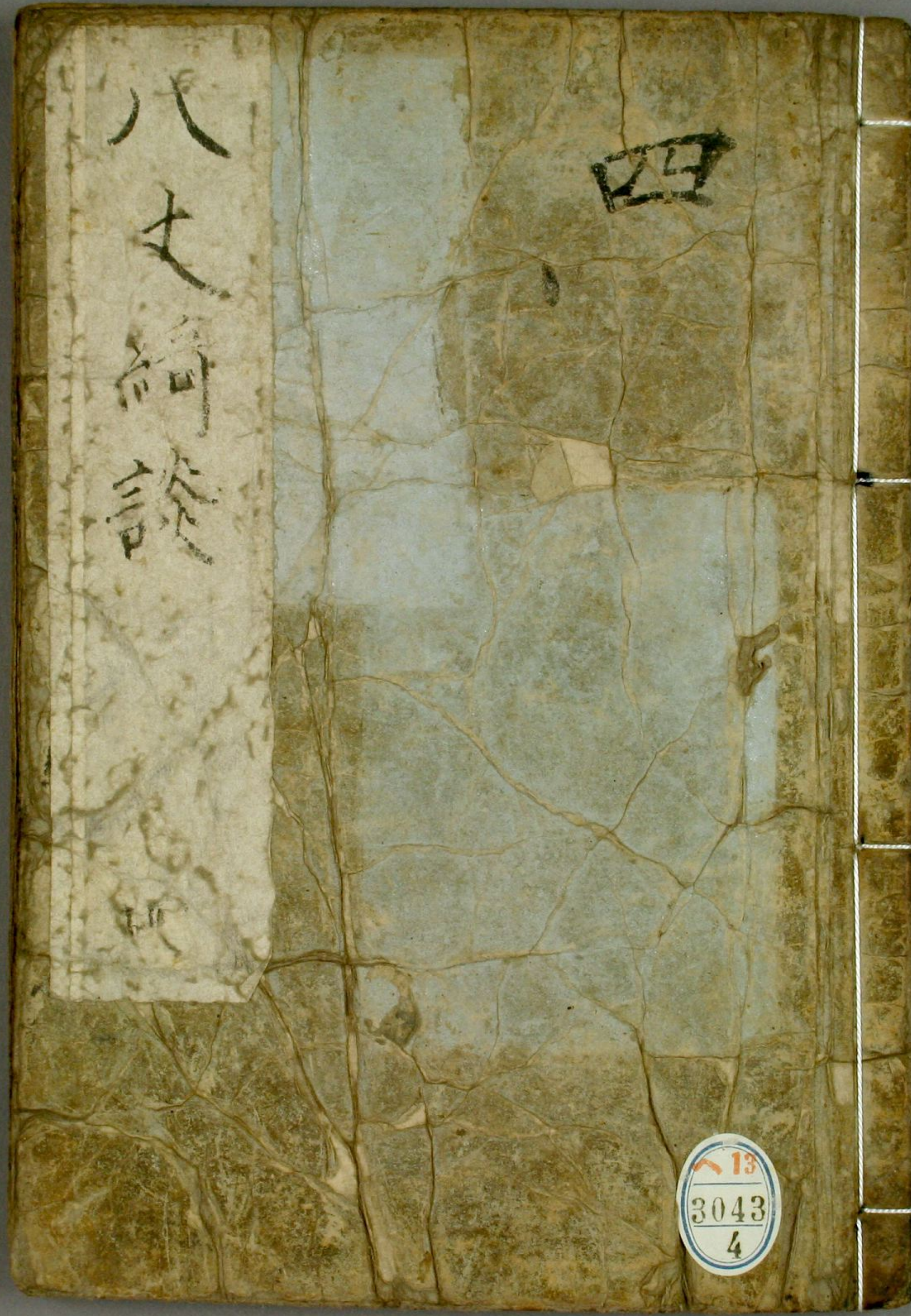
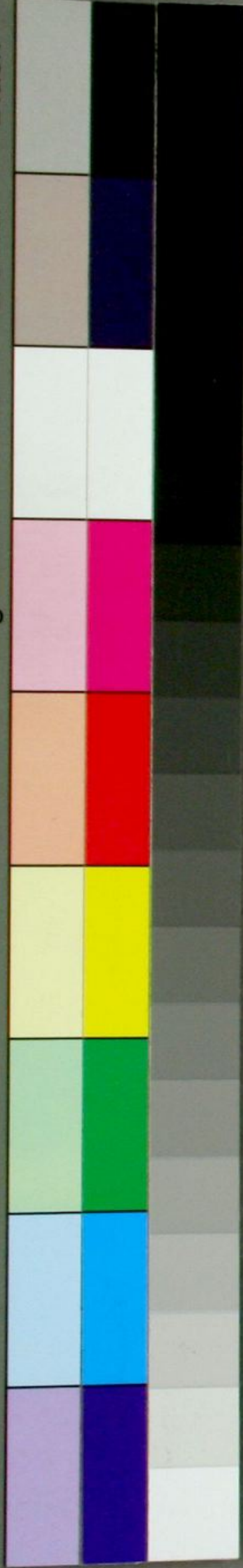
Red

Yellow

Green

Cyan

Blue



八
女
信

四

13
3043
4





お駒
お八木
お意中
お三郎
お婿

お意中
お三郎
お婿

お駒
お意中
お三郎
お婿

お駒



お駒
お意中
お三郎
お婿

お駒
お意中
お三郎
お婿

お駒

お駒

お駒
お意中
お三郎
お婿

人の齡に限らずあり。千々の黄金を積むとて。子にまると宝に死あはれ。まで
 愛せたるはゆるぐと。親とつら子ととる。過世の業因るべく。隔るをゆるぐや
 こそ艶麗なる標致なる。いとふも腹も疼めむ。かゝる女兒と儲け。今も
 まよと飲ひと。精しゆと。叮嚀し。人めたるりの陽矢白底意ひと。た天ぬ清
 共の慰め。壽を延述し。お駒の袖のく目成枝ひ。生とく。結る物なる
 又母のありと。家の親と。とる。けり。いづか。む。の形。と。壁。は。も。の
 ろう。小去歳は。今。茲。に。と。り。思。身。も。と。か。く。や。と。と。る。お。お。ひ
 神は佛不願言の。か。り。て。け。は。の。り。なく。実の親の親里。と。と。る。娘。と。と。悲
 し。此。の。年。来。字。と。る。二親。の。実の親と。敵。と。ら。何。と。り。言。号。と。振。と。け
 髪。と。有。る。ま。と。諸。共。は。生。育。し。彼。人。と。中。絶。ん。空。結。び。る。妹。と。使。分。
 い。ま。と。枕。の。水。の。あ。へ。と。と。か。う。と。墓。を。た。め。の。ゆる。は。と。の。ひ。け。て

又伏枕ぬかて。芥丈八ホ。の。不。さ。る。ぐ。は。履。も。お。駒。は。夜。を。被。う。え。と。色。物。食。い
 ぐ。と。と。と。と。果。敢。と。く。の。著。も。ゆ。と。と。と。才。三。郎。が。み。紙。の。も。後。で。忘。る。隙。も
 か。く。は。と。暮。し。翌。と。あ。り。せ。ば。千。年。紙。あ。る。心。お。し。人。傳。る。と。力。乃。憂。甚。言。言
 や。う。ん。よ。う。と。る。日。毎。は。矮。樓。登。り。つ。川。一。條。の。あ。る。と。尾。花。が。軒。流。う。ち。眺。め。
 河原面の便室への。彼人の。あ。る。と。か。彼。れ。は。力。あ。る。現。人。界。の。天。河。年。は
 一度の。の。み。で。と。る。不。獲。さ。ぬ。袖。の。兩。濡。と。と。惜。き。形。見。の。衣。二。三。四。ッ
 う。と。招。き。よ。あ。ま。さ。る。紙。は。う。抱。き。借。然。と。と。泣。は。り。勤。死。の。と。と
 理。り。ま。と。件。の。桂。才。三。郎。と。婚。姻。の。晴。と。と。養。母。小。枯。枝。が。と。と。て
 と。と。と。と。一。對。の。小。袖。と。と。今。の。稀。る。お。と。ゆ。は。八。丈。嶽。嶽。黃。紙。と。と。と
 紋。と。大。桐。裾。と。と。菊。小。蝶。紙。と。と。深。と。り。け。る。と。と。天。文。の。比。迄。も。八。丈。嶽。と。唱
 老。の。八。丈。嶽。と。り。織。女。と。と。縮。の。と。と。あ。ら。と。尾。張。と。り。出。と。縮。と。と。の。長

八丈綿あり。こゝに八丈綿といふ。大約綿の長を定めて二丈六又せむ。こゝに
 といふ。後の二はて。こゝに比まを。綿の長短のく。その差あり。といふ。八丈綿を
 殊に長う。云幡磨の飾磨紺武糸。河乃調布陸奥の信支指。陝布の
 細布。こゝに有。都鄙。各々土産。事ども。鄰。國を胡越の。彼を
 撃。こゝに。戦國の。軍中。う。は。漢人。し。尾張の。綿。購。人。と。し。輻
 々。と。其。と。獲。る。も。又。故。あり。小。桔。梗。が。又。牧。村。綿。つ。い。ゆる。天。文。十。五。年。に。六
 月。に。指。ま。し。も。才。ま。り。糸。より。て。その。比。長。男。牛。之。女。長。通。り。妹。小。桔。梗。よ
 贈。り。て。父。が。像。見。の。衣。裳。の中。に。彼。綿。一。巻。あ。り。あり。こゝに。今。約。ぐ。れ。也。な。り。二
 三。と。裁。り。子。共。ホ。が。好。く。よ。ま。る。色。あ。る。下。色。は。深。く。一。回。ハ。才。三。郎。が。小。袖。に。刺。立
 二。ハ。ハ。馬。駒。が。袷。に。二。ハ。その。色。ハ。黄。緞。小。紋。も。模。様。か。ら。う。る。入。り。か。く。ま。し。唯

二。月。廿。六。日。稀。る。黄。道。吉。日。こ。の。日。ハ。必。妹。と。使。の。盃。と。さ。せ。ん。と。い。ふ。
 今。ん。も。幾。日。を。あ。ら。ん。ど。お。駒。ハ。先。づ。齒。を。漆。よ。と。く。一。日。小。桔。梗。ハ。汝。牕。帝。將。求
 子。角。椽。と。大。く。執。事。の。八。丈。綿。を。製。衣。し。る。お。駒。が。袷。の。二。ハ。あ。ら。ん。ど。つ。も
 け。の。晴。小。と。く。刺。著。亭。と。り。て。被。せ。る。折。と。ひ。を。う。け。も。一。件。の。と。い。で。来。て
 諸。乎。ハ。お。駒。と。り。復。さ。し。し。その。日。その。時。才。他。ハ。渠。が。被。が。え。の。あ。ら。ん。ど。新。ま
 衣。三。襲。あ。ら。ん。ど。齋。し。て。遣。せ。し。こゝに。や。像。人。よ。う。り。ぬ。と。ハ。豫。て。あ。ら。ん。ど。は
 わ。ら。せ。ど。い。ろ。く。る。衣。の中。に。仁。田。山。袖。の。裾。の。あ。ら。ん。ど。小。褌。木。綿。と。後。に。せ。し。し
 その。才。他。才。他。が。こゝに。被。と。し。賜。う。く。こゝに。被。お。駒。ハ。被。り。小。桔。梗。を
 い。せ。や。う。お。異。や。う。る。被。衣。と。お。か。が。衣。裳。に。せ。よ。と。い。ふ。怪。う。も。あ。ら。ん。ど
 せん。あ。ら。ん。ど。こ。の。衣。ハ。被。綿。も。い。や。ま。う。く。お。ん。か。が。あ。ら。ん。ど。八。丈。綿。に。せ。し。し
 こ。の。被。衣。に。被。置。但。色。の。袴。ハ。牧。駒。と。漆。く。ら。ん。ど。め。お。ん。か。が。ら。ん。ど。口。に。ま。し。し

る不さるぐよひららるる復世女兒のため。壻と擇むと世の因縁を断りて
くさる女が。こもえ下ほと楽しげは。琴将操と面の形をよ。妙法は。等身たす。
うけ。むきつる。こころを送りて。潜中り。まゝくくく。あつるふあつる。
鬼の毛は。結ぶあつる。こころを送りて。潜中り。まゝくくく。あつるふあつる。
痛し死へ。う母と。こを彼に。程ちた。音耗る。死へ。う母と。こを彼に。程ちた。
襦袢の中より。養育者。くる恩愛。才三郎と異る。うぬ。あつる。別の家。こよ。
病づら。うて。あつる。折を。あつる。折を。あつる。折を。あつる。折を。
竊よ。こも。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
門より。潜ひ。孫。廂より。攀。登。し。後。と。面。と。あつる。あつる。あつる。あつる。
意。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
づ。長。死。月。日。後。と。候。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
携。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。

関の小川の瀬から。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
まの。け。生。ぬ。親。で。と。十六。年。親。愛。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
疎。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
し。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
悔。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
日。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
壻。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
あ。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
い。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
如。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。
軒。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。あつる。

罵らまてを怒りまてを仇に愛ぬ那の巻子殺さるゝわあゝと只願ひに
 疑とぞ死くゆりまて一言小笑白紙とせとくゆりふらふそふ千僧の流経山と三万佛
 の来迎もまて尊死冥土の累獲む二世の勢アのそ長生とまむむとまむ
 づつばとぞ死魂夫の膝は伏枕む涙の苗む八丈の長死被と絞るまふとまむ
 うるの夜乃色あやる死呻言とるむと才三郎の嘆嘆とくわと背を擦
 擦つとまてあぶづらひひとまて日未預るまて信るまて疑ひと下りまて
 こまてあま三親の腹とまて六理うらむと心あつたあつたが貪欲とま
 けりまて色いふひは只痛く死むん力が苦勞緯の起つたうらふと母を
 まらまて現煩惱の塵のせれと積りて山鶏の雌雄峰上を隔るとと縁
 竭ふあふ夜もあふんうら死歎死は時孤秘と人なまらまて浮るやたん
 思ひわとて病あふとまて退下んとゆひあふとまてまて忙しくやまて

あいのありと推る被と振拂と再び推る或撞退下れて吐きと声ひは
 力を仰とる小倒とるまて矮樓より落るとまて假寐の夢れ浮揚
 中絶て忙然とくまてまて折小断歧花あふと樹の性急と挽
 疎る河岸の筏とまて日の中まてり合と下とまてまてまてまてまて
 その緯果て半日あまらう勞世骨を且く休んとく伏しとる杜木と尻とくけて
 領の行狐杖の折懸とまてあふんとく人川の向ひは塵埃起くと颯と吹風と掃其は
 その形状蟬と似て蟬よりまてまてまてまてまてまてまてまてまて
 著く或撞落とまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて
 とまてまて馬と高とあふとまて當下馬あやうやまてまてまてまてまて
 墓と死とまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて
 まてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまてまて

山青堂藏

山青堂藏

けんとまはよわのころにて。いふほど小日送をせし
 因果のそめゆ。あやしの虫の正なるは。後をまひ
 あひ及れ。かくて今茲も春暮。夏水。月の上流にやぬ。
 不顯尾花才作のいゆる比。あつらう。お駒と諸平。あかせ
 志。私のころ。うき原。守の命。よき。あつらう。く
 ちひ終。憾。い。き。と。ん。せ。後。小。桔。梗。か。ふ。く。は。遠
 憾。さ。う。ち。と。忘。さ。さ。才。三。郎。が。その。日。より。抱。き
 ち。ち。我。理。り。え。た。慰。め。ら。し。母。の。恨。よ。ゆ。を。ば。き。有。一。日
 良。人。又。對。ひ。て。ら。す。う。お。駒。と。諸。平。お。取。り。は。し。り。日。ご。ろ
 ふ。と。の。音。耗。ら。れ。た。こ。ろ。ゆ。ぐ。て。ら。る。り。ゆ。り。才。三。郎。と
 云。号。て。婚。姻。の。日。さ。入。定。め。し。我。お。駒。が。ら。ぬ。り。や。あ。る。



よ。や。一。旦。と。り。復。さ。と。と。女。子。の。家。と。嗣。は。ま。は。ま。と。が
 こ。ろ。又。嫁。ら。し。く。養。育。の。恩。は。報。ひ。好。好。結。ぶ。が。て。め。
 人。の。信。は。ゆ。り。し。入。し。く。訪。せ。あ。い。ま。と。と。才。作。他。路。を
 う。ち。掉。や。と。會。者。定。離。さ。仏。の。教。あ。い。別。れ。始。ら。る。ふ。
 ち。ぬ。人。の。お。ろ。う。さ。よ。諸。平。へ。元。來。利。孤。杖。の。白。物。の。標
 的。は。女。児。と。り。て。え。る。り。ゆ。り。浪。人。の。こ。ろ。子。乃。嫁。よ
 ち。ぬ。り。渠。が。薪。炭。鬻。一。比。を。び。く。と。ん。來。つ。と。と。我
 迹。へ。住。知。も。近。く。川。一。條。隔。る。が。胡。越。の。ご。と。う
 ち。の。情。け。且。論。せ。ど。利。の。な。り。子。を。棄。て。又。利。の
 ち。子。と。り。復。さ。渠。が。た。た。人。面。獸。心。を。駒。お。駒。が。け
 ち。ぬ。り。ん。ご。う。の。ち。ぬ。り。才。三。郎。へ。と。り。め。は。



あはれ人と恨こ形ろくさしめせん秋さらしと女子の渠のころりど。連下念を終て
 女じく人よ美をあるやうさうさゆめとさう。巨小桔梗もかるるの。丹ひいそ
 出あふると顔儼く寝る。あるドもあふひは憾さぬつえよ。いふやうに
 若しうば。浩知は荒老と。門邊は野の人音と。いじくゆりあり。誰と問は
 るひかけられ小桔梗が兄牧村牛之助長通此君命を兼す。是後十八郡を
 巡歴せし。その叙は訪る尾花が退糧しく。後の通あることと主君悼す。指
 するエもろりしよ。いとめづらゆを訪ると面目とまじりまじりのほとあや
 親子の雀躍しく。施て上座は清待し。寒暖と迹を異と祝と賓主れ飲び
 大さうらぎ。小桔梗はつる羊又の臨終はゆわらる。さうさういひ出て。サ
 物ぐらとと蕭然なり。當下長通父が後方はゆりける。才三郎とつらつらして
 こころが怪であつた。叔父は郎はなりふけり。先君がなまことりし日。こころ

外はさけきごと。通路は絶へ。傍難と憚りも故。こころ道三逝去す。く
 新君箕衣を嗣多へ。憚の園乃戸をこころ。閑とちぞさる。まじりてこの
 和(さうらぎ)さうらぎ。私君命は他事よ。あやむさびり。及ん邊鄙乃愚民動
 さま。六出生の時日を諱く。その子を棄後悔はるとい。とさうり。君この
 り。誠歎せむ。既に仁慈の嚴令あり。と。山里さうらぎ。兼す。編さる。の
 わらんとさうらぎ。つらつらして長通園中。巡歴止しく。隈さうらぎ。下知。後傳人。と。仰は
 ころりてか。の。は。さうらぎ。小川の。を。さうらぎ。坊賈。諸平。と。ゆり。り。の。天文二年
 秋の。比。如此。この。艱苦。は。懐。く。給。浪人。尾花。才。作。門。へ。女。見。と。棄。る。は。あり。
 類。は。先。雅。致。悔。歎。け。ど。今。又。は。憐。れ。折。形。を。あ。ま。さ。と。守。の。仁。政。を。尾
 花。お。か。さ。う。ひ。う。り。く。女。見。お。駒。と。り。復。せ。り。と。是。後。は。里。正。其。甲。の。女。見。
 ころりく。審。ま。さ。さ。り。定。め。さ。その。ゆ。り。の。け。を。問。て。才。作。子。夫。婦。へ

面談ありしと歎息し。かゝるものこそいひし。昔は人の如此なる。尾を流し
 筒様と。猪平が駒が律の執らもろく告ぐ。長通も又嗟嘆し。これいかに
 来つる所の親手は何と。物もいかに面をうつ。この彼が駒をとり復して
 迷恨中なるを流し故をえん。さうして必恨をいふ。さうして物怪の幸。猪平の
 いふもの。さうしてこれいふ。あり。這奴のその性貪婪の癖者。さうして昔
 悪もあつぬ。加神件の猪平。往時あり。小藤まじり。昔月一角が奴隷。その
 母。一角が姉。さうして假初の主。後といふ。さうしてさうして彼をの
 女。見と拾ひ。養育す。才三郎。妻せらる。さうして禍胎。穢なる。さうして
 さうして。さうして小藤。拍と。流し。尾花。親子。駭然と。驚か。果。目。度。大。ぢ
 かる。息。吹。死。小。桔。梗。が。恩。愛。も。才。三。郎。が。愛。惜。の。絆。を。忍。地。絶。果。て。下。めて
 夢。の。ま。て。る。む。く。惑。ひ。煩。は。釋。し。怪。し。む。才。三。郎。が。襟。より。さ。の。虫。を。とり。才

借。て。さ。う。と。さ。う。と。件。の。虫。の。ゆ。り。比。因。果。墳。の。壞。と。り。て。年。長。披。く。う。と
 さ。れ。お。駒。が。美。女。被。せ。その。時。渠。が。嘗。て。り。出。る。虫。は。疑。ひ。る。捕。く。ん。と
 い。そ。が。才。三。郎。の。臂。近。る。扇。と。り。さ。う。と。用。死。と。り。ち。ん。と。さ。る。必。は
 虫。の。忽。地。衝。と。死。す。面。談。被。て。を。失。は。る。さ。う。と。さ。う。と。駒。が。樓。に。い。ひ。夢。の
 中。に。才。三。郎。と。ん。り。し。も。は。病。が。何。系。小。休。ひ。て。あ。中。に。虫。の。胸。は。著。と。さ。り
 拂。ひ。つ。と。さ。う。と。お。駒。と。面。談。あ。り。と。さ。う。と。さ。う。と。日。の。ゆ。り。は。て。あ。る。り。と
 その。時。の。違。び。り。ど。不。思。議。なる。却。流。尾。花。牧。村。ホ。に。彼。虫。の。事。は。り。て。物
 語。も。又。長。う。る。才。借。の。因。果。塚。の。崩。さ。る。律。の。執。捕。ま。り。硯。の。り。ん
 の。古。法。乃。つ。り。久。空。や。う。と。鏡。あ。り。て。件。の。硯。を。見。り。さ。う。と。長。通。の。小。面。京。で。は
 回。賞。嘆。し。は。先。君。と。顧。み。その。硯。を。惜。せ。り。件。の。塚。を。流。し。く。さ。り。出。や。と
 仰。せ。り。久。く。又。流。し。り。て。その。の。止。め。と。後。は。ゆ。り。か。現。未。曾。右。の。古。研。之。新。君



才三郎

小桔梗

蜻蛉と論
牧村
婚縁を
結む

才作

才三郎は才作の感涙をば通家とて其の二僕をば使はせり。其の
 浪人なる守の家臣牧村也。愛女あり。才三郎は妻せんと欲す。當りては
 才作を以て推辭ば嗚呼と仰り。その人又小桔梗也。款は面貞
 しく。根本はまはる杉木はな駒とて活駒と迎へば石紋にて手代り。
 才三郎は世に幸はるが子とて満足するめ。いつて才三郎は
 ちひらけり。縁談は鹿角の某と愛せしむ。伯父の賜もかくと
 父母の仇とて上心はせしむ。長通も款を以て限らる。頼の意は
 りしがあり。巡歴もこの地も。翌は稻も又入る。婚縁のほどは
 りば活駒とてせしむ。遅くともこの秋は過さ。名退とて
 才三郎は親子に推留め頼のつらみと果敢とて款待のゆゑに長柄の
 年魚とて及びぶと藤川は鮫の素焼とて款待は今一度はとて
 十六の山音

余に至る凡五世家は難産天折の婦人あり。但し茶種は極品を採り製法方の容易なる
 ざるを推して推して近頃の人のさしは任せ功能極めて世にひろくするもの。
 一第婦人らのなるゆへ頭痛やまひさぐらふものは婦人物たるもの。ゆえ死はよく
 度ありびきで。俄にうつらうつら。或は後ちうつら。或は目のうつらうつら。或はうつらうつら。
 或はうつらうつら。或はうつらうつら。或はうつらうつら。或はうつらうつら。或はうつらうつら。
 用を只一貼し即功あり。正は是神女湯の名空しくうつらうつら。或はうつらうつら。
 一産前用。用は安産産後小まぐり用は悪毒をこぼし血をこぼし乳汁はよく。
 母と安んずる子とまじりやうまは。凡子たる婦人常に用は内を補ふ。懐胎する。
 産の婦人後を用は亦肉を補ふ。血虚崩漏等の患ひあるには。
 ちやうと腹中かゆは下腔の冷る。はぬかごのえひ酒の宿醒は打方。は物。
 くらりとりのせせらる。く乳紙さつら。血をこぼし。體をゆるむ。さらさら。
 さぐり月水不順のたやをも用は内。或はうつらうつら。血をこぼし。人経のつもの。
 下。但し経のく不順。うらま。或はうつらうつら。散茶の。外婦人諸病。



精製 奇應丸

一包三百粒餘代部朱。中包百粒入代部朱。小包十粒入代部朱。
 一粒六文。ついで包。合。括上中。但五。下。小。不。は。

まじり丸の功。世に。或はうつらうつら。その可。不。論。む。死。
 茶。或はうつらうつら。む。或はうつらうつら。或はうつらうつら。或はうつらうつら。
 の。賣。茶。う。う。の。製。方。の。用。は。は。茶。種。は。上。品。を。採。り。ま。ま。ま。奇。應。丸。は。名。の。り。
 の。ま。じ。り。丸。の。功。の。は。ま。ま。何。の。益。も。あ。り。今。今。家。は。製。法。亦。加。え。の。一。方。は。茶。種。の
 價。と。も。製。法。も。真。物。と。す。と。分。量。ま。ま。法。は。ま。ま。ま。調。合。は。つ。ま。ま。も。と。
 の。つ。ね。の。奇。應。丸。は。比。ど。この。効。百。倍。方。倍。の。功。能。な。り。列。帝。は。記。せ。凡。大。小。鬼。の。万。病
 即。効。め。る。ま。ま。ま。奇。効。妙。應。諸。事。は。勝。る。一。つ。び。試。せ。精。製。類。を。ま。ま。

○つねむしの妙茶
 毎月つねむしの妙茶。人。は。よく。つねむし。一包。六。十四。調。
 つねむしの妙茶。の。あり。こ。ま。ま。用。ひ。て。極。め。て。好。ん。小包。三十。調。

右調合并弘所 活元飯田町中坂下南側 瀧澤氏製



まきと花のいそいで来て俄頃の婚姻と外はなぐりおん方か恨病さあらひいと理
 下は吾侪むくの少女よそのかろとのあうんまづ死夫へ面めては他夫を
 あらうくきく奔て浮後成るる秋とまきとこころをさるる今般をさるる
 滅と媚。越て淵底の方と投りて。死るあやわらんごらん。といひぐさるるこれ
 おん方よその意地もろ。所容さうくさるるが。傷い。とむくひ火とつくる
 心のみろ灸押しまてる痛さるる。危ぬお駒ひあびむと涙血と吐く紅花を
 振こぶまきと彷彿さる。灸治をやうや果る比とんまの河原へ糞橋を東走り
 つ。嫁入道具の今才あといひ死て下よと総角ホが罵り散動光景又馬吐吐
 目と過よこれかあほ後て一歩くくと泣くり。そのと死谷へ櫛子の塵指で驚
 嘆いぬる夥しれ掉の数昔筆長櫃屏風の管おほじこるる油筆早くくく
 二平く尾花が宿所お駒おん方もとて出く。遠くうりともとてんあはさ。いひりて

約燈籠引捲く下屋階子の中央は律のやう狂竊笑る夫八八入らまて泣視む
 お駒がひとり徐すよ小膝式よを顔と覗きて嘆息い。う。助勢をまきとあは
 嗚呼は他い。とるまげよとあさん。五口侘も息子といらま。と死の苦し死
 恋をせざるよわらむ。才を摘りのよあうざりせ。い。で。人の痛き死
 して又母所前へ継れ心一息うけておん方よあお死遂さる。すかあがと
 人志とと某と相譚あ。是も又死止が。い。う。と。あ。祈。今。お。と
 橋井へ赴く福小堀橋のあう。まて才三のやふあれたる。知。り。う。後。あ。び
 うけく。人。の。死。う。ま。招。れ。よ。せ。お。ん。方。よ。う。う。う。て。あ。の。う。死。り。理。せ。ぬ。と。お。ん。方。に
 彼人怒り嘆息す。う。と。又。異。妻。を。取。る。う。う。ら。あ。ら。後。と。親。の。信。又。う。の。昔。死
 が。て。當。坐。脱。ま。う。美。和。が。婚。姻。を。と。や。近。く。な。り。ぬ。あ。う。の。木。和。殿。の。い。か。こ。ま
 真お駒がまうおのう。ま。と。渠。を。借。る。早。く。殺。死。隱。ま。し。翌。の。夜。あ。う。の

橋のちりりと足音と密やかに侍の執一毫のそとをうらやま
と入るにこそこの世の御は五目妹子が志しきと等し記りのるる大和殿宜く
討ひし何はまさ正し記證據紙今宵竊よりせぬ媒始と憑むのこころ
へりくつらと一ふ其輒く兼引く忙しく別れぬ記三十六計内紙上と
こころとひらぬ一旦家公の怒はあふと他へ外ぬ女子の苦節強き
解るが夫婦のうたは口へこそ入るに必定るなり家公はあふと
密語が恋は心の素まつ。いとて我はひ小女子がいと苦しむを計られぬ地は
匹成權原まゝの侍今とかを心あつてとせし紙に計との悔しと
里は鈴齋で穂心の薄は雨夜忍び垂水と碎きく物くこと情願は床
で何れ恨のゆゑまゝとて移して忙しく交治の点を落しつる硯管紙引
よろく懐紙紙推ひくま。その夜のふ紙はやくと書ひく巻入る彼八丈乃

桂とさう出く袖は引包とやよ夫八書と衣と紙階と小彼や一遊きて
桂は二あり。よりやその夜は丸記鼻まるととく色又まの模様も等し
衣を被く。櫻櫛まゝ候ゆるとみ二の衣のぬか才三のやもよくあり
こころはまゝとる證據紙はこころ約てとを説示で夫八こと紙受とつる懐紙
合して背階子より退りけり。後よ夫八も。その夜は入定して
ける。小廝岐義とゆひ是とる。岐義は寝惚て岸破と起走りこころ
丈八の笑いとあび抱き縮めく。さていふや。店の長はうらやま
るるまこと汝八士の令愛と二の日来より情由あまをいふまこと本意
とて成人も志しむ。天知り地知り主人も志しむ。彼は
とらむとく岐義は急地と見え目子を睡しつ。不白とるり小口隠さ
いよ声と細めこころと入るの子へのそと情願。傍輩と成る目と



岐花
復塚
間柴

岐花

務しと。宵と毎乃焼餅琉球半此買吟ひと生涯のてぬ方とての刺波を
 布子の襟と跣ふ風ゆる共方と殺してと中への思致報さう人現る
 産三といとどかか。道と頓首再拜とや。綿のこもる債満一
 新雜と今入のち死あるままでと跪く丁を嗚呼しけき。入りやきんと大
 八のち抵抗と目注し。燈と尾燈とうち掩ひく。彼と睡らせ我を外より
 ひとと岐花の明るまで睡るととるふいと寝るを志。結早の結を
 人より先と起してとど何せんともふもつとどおほ道とあわし結を
 忙しく人め我をのびくつ。今宵夫と侍きんと准妨我まるりのうと。ひ
 親と棄らとつ。今又親致捐てや。罪を報と過世の物束許とてとま
 白地小の勤解ぬ勤死へる不深うり。かかその日正午とえむいり
 復塚より。岐花が母結来より折く店とあや。諸平丈八は家も
 復塚より。岐花が母結来より折く店とあや。諸平丈八は家も

明^あしたり。か^かいお駒^{こま}はあ^あら^らと^とど^どし^しと^と福^ふと^と脱^だと^とし^し。その^{その}あ^あよ^よし^しを^を丈^ぢ八^は弁^{べん}好^{こう}計^{けい}の^の
 その^{その}的^{てき}外^{がい}を^をく^く。む^むご^ごら^らの^の焦^{しょう}燥^{そう}と^とお^おり^りい^いが^がけ^ける^るれ^れ大^{だい}病^{びょう}は^は扁^{へん}鵝^がと^と後^ご
 又^{また}又^{また}。於^おさ^さと^とま^ま術^{じゆつ}を^をる^る。か^かて^てお^お駒^{こま}の^の次^{つぎ}の^の日^ひは^は痛^{いた}些^せか^かこ^こら^らて^てお^おう^うや^や
 こ^こし^しお^おう^うら^らい^いる^る。その^{その}内^{うち}を^をま^まと^とも^も丈^ぢ八^はホ^ほの^の流^{りゅう}敷^{しき}を^をと^と一^{いつ}点^{てん}を^をら^らと^と才^{さい}
 三^{さん}郎^{らう}は^は物^{ぶつ}束^{たづ}せ^せ。その^{その}夜^よは^は後^ごを^を病^{びょう}著^{ちゃく}の^のこ^こと^とを^を紙^しと^とも^もう^う恨^{うら}め^めを^を
 既^{すで}に^に暗^{あん}号^{ごう}を^を措^そて^て又^{また}い^いち^ちや^やん^んと^とも^もう^う。只^{ただ}この^{この}ま^まに^に小^{せう}死^じを^をや^やと^とあ^あ
 め^めう^うら^らぬ^ぬを^を死^しと^と病^{びょう}と^と九^く兩^{りやう}あ^あま^まり^り。雁^{かり}が^が子^こ渡^{わた}る^る季^きの^の秋^{あき}後^ご乃^な月^{つき}つ^つる^る
 比^ひよ^よう^うら^らい^いと^と又^{また}生^{せい}憎^{ぞう}は^は肥^ひと^とら^らら^らり^り。

述江仙

美濃舊衣八丈綺談卷之四終

